光鯱会だより（第19号）　平成27年12月号

発行：光鯱会　会長：岡本賢（S39）　本部長＋連絡担当者：井戸田秀樹（S58）

〒466-8555　名古屋市昭和区御器所町　名古屋工業大学　建築・デザイン工学科
HP：http://koukokai.jp/home/　E-mail：koukokai@archi.ace.nitech.ac.jp　TEL052-735-5517

Ⅰ　卒業生は今

■本部

巣元 剛（H10）（株）奥村組

奥村組に入社して18年目となり知らぬ間に間もなく折り返しを迎える事になります。入社当初は社会人としての自覚も無く、定期代を使い込み通勤不能となり現場事務所のロッカー室に寝泊まりしていた事を思い出します。

現在は若干の自覚も芽生え、現場の運営を任されるまでになりました。今まで現場代理人として引き渡した建物は7物件となり、今夏竣工しましたＪＡあいち知多本店の新築工事では常滑の街並みにあった建物を無事に引渡し、事業主から感謝の言葉を頂きました。

ゼネコンという仕事は自分の建てた建築物が地図に残ります。それだけでなく様々な土地で様々な人々（事業主、作業員、近隣住民）と出会い、一つの物件で数千人の人間が関わり合います。

現場職員のやり方によっては品質の不具合や、不具合等による利益の減少により、数千人の人間に不利益が出る事になります。現場監督とは、その能力次第で関係者の生活を左右する非常に重要で遣り甲斐の有る仕事です。そんな仕事に誇りを持ち、今後も関係者全員が幸せになり、完成を喜べる建物を建設していこうと思います。

また、新入生がたとえ定期代を使い込んでも、安心して寝泊まり出来るような現場事務所を建ててあげようと思います。

【ＪＡあいち知多本店】
Ｓ造地上３階、延床約3,4106.04㎡、銀行本店

【筆者の作品】現場のトイレに掲載

井川 崇史（H15）　トヨタ自動車（株）

【落水荘にて】

私は現在、トヨタ自動車よりTEMA(Toyota Motor Engineering & Manufacturing North America, Inc.）へ出向し、北米トヨタ全体の拠点再配置に伴う、新社屋や実験棟の建設PJに携わっています。

2005年に入社して以来10年、会社の建設PJに携わってきましたが、言葉や文化の異なる場所で、社内外の関係者と議論を交わしPJを進めることは初めての経験で、難しさを感じております。

担当する建設PJの関係で、週変わりでミシガンとケンタッキーを車で行き来しており、こちらに赴任して約７か月で走行距離は20,000マイル（日本の北から南までを５往復くらい）を超えました。

仕事上でのアメリカと日本との大きな違いは、仕事に関わるすべてのやり取りが文章に残される点です。会議議事録以外にも、仕入先への要望提示やユーザーから仕様変更依頼まで、帳票を使い保管されてゆきます。その最たるものが工事の入札に使用するクライテリアです。建物に関するすべての仕様を文章で記載しており、1つの建物で1,200ページにも上ります。そのため、仕事を進める中では書類の読み書きをする機会が大変多く、もちろん言語は英語の為、日本では20分で終わる仕事も倍の時間を費やしながら毎日書類と格闘し大変苦労をしています。

しかしそうした甲斐があってか、今回の新社屋や実験棟にも自分の提案した外観内観デザインや、使い勝手を向上させるアイデアが数々取り入れられていますので、完成が待ち遠しいです。引き続きこちらの米人メンバーと意義あるコミュニケーションを重ね、最後まであきらめずにやり遂げたいと考えています。

最後になりますが、プライベートでは妻とともにアメリカ各地へ旅行に出かけ街の雰囲気に浸るとともに、建築への知見を深めるべく各地の建築物や美術館を巡っており、大変充実した時間を過ごさせていただいています。

■関東支部

浦木 拓也（H15）（株）日本設計

大学を卒業後、東京工業大学修了を経て、2005年に日本設計に入社しました。日本設計が大規模案件を得意としていることもあり、丁度入社10年でようやく自身が中心的な立場で業務を行った南池袋一種市街地再開発事業（豊島区庁舎）が完成しました。現在はその仕事のアフターでお客様に寄り添いつつ、他の大規模案件を進めております。

上記の豊島区新庁舎が整備された再開発事業は、庁舎の上に超高層住宅が設置され、官民が立体的に複合する、日本初のビルディングタイプの建築です。特にこの新庁舎建設は、少子化によって廃校となった小学校跡地を種地として区が再開発事業の権利床を獲得し、それだけでは足らない分の原資を現庁舎跡地の定期借地権売却によって賄うという仕組みによって成り立っています。新庁舎を整備して「財政負担ゼロ」が、豊島区の最終目標でした。日本設計は、2003年の再開発創設期からこの事業に携わっていました。私が本格的に参画したのは2008年で、そこから竣工まで約6年半の年月をこの仕事に尽くすことになりました。2011年の東日本大震災、その後の急激な物価上昇など幾つかの荒波もありましたが、2015年3月に無事当初の目標「財政負担ゼロ」を実現して竣工を迎えることができました。この再開発の仕組みは、潤沢な財源のない自治体を救う可能性のある手法として、社会から評価頂きました。また、新たな庁舎を利用する区民より、素晴らしい庁舎ができたと喜びの声を頂くこともできました。

再開発事業は、竣工するまでの時間がとても長いため、作品づくりを生業としている私も含めた設計者としては、非常にフラストレーションの溜まる過酷な仕事です。しかし、建物の巨大さも含めて、社会的な影響度は他を圧倒するものがあります。設計した建物を利用するエンドユーザーに留まらない、まちと社会を創る仕事をしていると意識して、責任と共に大きなやりがいを感じながら、これからも仕事に夢をみたいと思います。

【川澄・小林研二写真事務所】

■関西支部

坂口 輝吉（S56） 清水建設（株）生産計画部

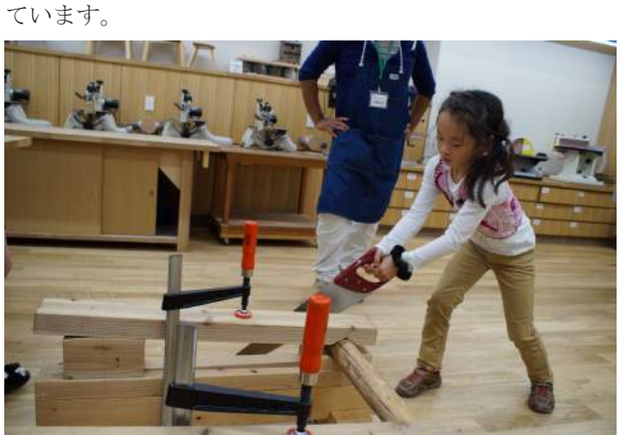
昭和58年（1983年）に小野研究室の1期生として大学院を修了して早32年目を迎えています。清水建設での会社人生も終盤を迎え、入社以来30年来所属していた構造設計部を離れ、現在は生産計画部の配属となっています。ここでは構造設計部での経験を活かしつつ施工支援としての業務に励んでいます。兼務としてビルライフケアセンターという部署にも所属しており、建物の簡易耐震診断（1次診断）等も行っています。

さて、仕事の話しはここまでとし、ここからは光鯱会関西支部の話しをしたいと思います。恥ずかしながら大阪に来て以来、光鯱会関西支部のイベントには殆ど参加することはありませんでしたが、H22年に関西支部の事務局担当を機に毎年参加するようになりました。

光鯱会関西支部では毎年秋の支部総会の時に、有名建築物や施工中の建物の見学会が開催されます。私が事務局を担当してからのものとしては、大阪駅新北ビル施工現場（H22）、甲子園会館（旧甲子園ホテル）(H23)、あべのハルカス施工現場（H24）、国立京都国際会館（H25 全国大会）、六甲枝垂れ（H26）の見学会が開催されました。

そして今年は、10/24（土）に竹中大工道具館の見学会が開催されました。今回は妻が茶道を嗜んでおり、茶室「一滴庵」の特別公開に興味があったのと、8歳の娘が大工仕事が好きだった事もあり、家族で参加させて頂きました。大工道具館では実際に大工仕事が体験でき、娘も鉋掛け、墨出し、和鋸・洋鋸での丸太切りにチャレンジしていました。

見学会の後の懇親会も私だけ参加することになっていましたが、一昨年私と交代で事務局を担当することになった同じ職場の松井君（H14卒）が娘のお気に入りで、急遽懇親会にも参加したいということで、事務局の方々のお計らいで家族揃って懇親会にも参加することが出来ました。事務局の皆様、当日は家族共々お世話になり有難う御座いました。併せて、これからも新たな企画に期待しています。



【洋鋸丸太切りにチャレンジ！】

II　光鯱会は今

■鈴木禎次賞の報告

夏目 欣昇（H5）　名古屋工業大学准教授

今年度、11 社のご協賛を賜り第四回の鈴木禎次賞を実施いたしました。過去最多 88 作品から、笹山氏・石原氏（日建設計）の桐朋学園大学調布キャンパスはじめ６作品を入賞に選出いたしました。11 月 20 日授賞式では表彰式、作品紹介、山本理顕先生（ゲスト審査員）ご講演を盛大に執り行いました。

詳細につきましては、特設 WEB ページをご覧いただけると幸いです。(http://archi2.ace.nitech.ac.jp/kokokai/tsa4/index.html)

■見学会の報告

上田 寛二（H20）　愛知県

光鯱会本部の秋の見学会として名古屋工業会名古屋支部の見学研修会に参加しました。当日は朝名古屋栄をバスで出発し、①大石酒造にて見学と買い物、②湯の花温泉松園荘保津川亭にて昼食と温泉、③平等院を見学、そして名古屋栄に帰るという１日のスケジュールでした。

最初に訪れた大石酒造は京都府亀岡市内にある操業 300 年以上の老舗酒造です。ここでは酒の資料館の見学をし、お酒や地元の特産品の買い物をしました。試飲することもでき、多くの方がお酒を楽しんでおられました。

次に同市内の湯の花温泉松園荘保津川亭にて昼食をとりました。食後には温泉や足湯に入ることもできました。

最後に見学会のメインである京都宇治の世界遺産平等院を訪れました。鳳凰堂は 2012 年 9 月から建立当時の姿に近づけるよう屋根瓦、柱や扉の改修工事が行われ、2014 年 3 月に竣工しました。映像で見るよりも落ち着いた色合いである印象を受けました。また、庭園の横には平成 13 年に開館した宝物館である平等院ミュージアム鳳翔館がありました。この建物は庭園との調和がとれるよう配慮し、建物の大半を地下に設けることで存在感を感じさせない外観となっていました。内部は地下部分にも自然光が取り込まれており、展示室の照明にも工夫がされていました。到着時間が予定よりも遅れてしまったこともあり、鳳凰堂内部に入る事ができなかったことがとても残念でした。また家族でも是非訪れたいと思います。

天候にも恵まれ、楽しい一日となりました。

■ OB・OG 交流会報告

浅野 健（H6）（株）都市研究所スペーシア

建築・デザイン工学科の学生を対象に、先輩からの就職にあたっての心構えや職場の様子などをガイダンスする光鯱会ＯＢ・ＯＧ交流会を毎年開催しています。毎回参加した学生達にアンケートをとり、その意見をふまえて次年度はガイダンスをする職種を変えるなど少しずつ工夫をしながら進めてきており、12 月 1 日でちょうど 10 回目となりました。

第１部のＯＢガイダンスでは５名に語っていただきました。最初は小島章さん（H19　大成建設）。現在名古屋駅で建設中の新ビルの施工現場での仕事を語っていただくとともに、就活の面接などでよく聞かれる質問をもとに会社の福利厚生や普段の生活など小島さん自身のことも細かく紹介されました。

２番目は安井雅子さん（H17　青島設計）。今回唯一の女性講師で、設計事務所での普段の仕事ぶりを紹介されました。設計した図面を施主にプレゼンする際に女性ならではの視点で語って評価されることがあり、「女性が活躍できる場です」というお話でした。

３番目は水野秀昭さん(H18　中部電力)。建築職 170 名（全体の 1%）で自社の 6,940 棟を維持管理していることや、発電所内の設備や事務所など各施設の建設における発注者としての仕事の携わり方、その中でも自社設計の施設における自身のこだわりなどを語っていただきました。

４番目は岩井一樹さん(H21　トヨタホーム)。ハウスメーカーとしての仕事の内容とともに、トヨタグループの一員である会社の特徴として、愛知県に本社があり全国展開していること、販売が別会社（ディーラー性）であることなど紹介されました。

最後は高村遵さん（H22　ブラザー工業)。ＵＩデザイン(User Interface デザイン）の部門における普段の仕事ぶりを紹介され、自分が携わったプリンターなどの製品が市場で売られたりユーザーの評判も直接入ってくることがやりがいだというお話しでした。

第２部は生協１階でＯＢ・ＯＧと学生が交流する立食パーティーとなりました。配布した参加プロフィールを参考に、ガイダンスで発表した５名をはじめ光鯱会の幹事も加わり、ガイダンスでは聞けなかった話を詳しく聞いたり親睦を深めるなど大いに盛り上がりました。

■関東支部だより－平成 27 年度光鯱会全国大会の報告

鹿島 孝（S59） 光鯱会関東支部長／（株）竹中工務店

11 月 28 日（土）、光鯱会関東支部総会と全国大会を行いました。宮野先生、小野先生、若山先生、井戸田先生をはじめ、本部・関西支部からもたくさんの方に参加していただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

全国大会のエクスカーションは、東京駅周辺を散策しました。三菱一号館の中庭に集合し、最初に歴史資料室を見学しました。三菱一号館の復元の経緯や丸の内の歴史を学びました。２つめは JP タワーのインターメディアテク。東京大学総合研究博物館の豊富な学術標本や研究資料が所せましと並ぶ姿は、異次元の世界に迷い込んだような錯覚を覚えました。３つめは東京駅です。本当はステーション・ギャラリーを見学する予定でしたが、あいにく休館であったため、南北のドーム天井と外壁の仕上げなどを見て回り、最後に参加者全員で記念撮影を行いました。

エクスカーションの後、場所を大手町サンケイプラザに移し、支部総会と全国大会懇親会を行いました。支部総会では、今年夏に開催したネットワーク・キャンパス in Tokyo の報告を S46 卒の野呂様より行って頂きました。

全国大会懇親会では、岡本会長にご挨拶を頂き、宮野先生による乾杯の後、和やかに歓談が進みました。途中、井戸田先生から光鯱会本部および大学の近況報告を、若山先生から今年の鈴木禎次賞の講評をして頂き、最後に勢力副会長より閉会の挨拶をして頂きました。短い時間でしたが、大いに盛り上げり旧交を深める会であったと思います。

〒 270-1395　千葉県印西市大塚 1-5-1
（株）竹中工務店技術研究所　0476-77-1342
支部長　鹿島孝（S59）　副支部長　永田敬雄（S45）
副支部長　工藤利昭（S61）　連絡担当者　宇佐美徹（H03）

■関西支部だより－総会・見学会の報告

宮本 和則（S55） 光鯱会関西支部長／（株）京都建築事務所

去る１０月２４日に平成２７年度関西支部総会が開催され、平成２８～２９年度の関西支部長を務めさせていただくこととなりました宮本です。よろしくお願いいたします。

卒業以来、医療福祉施設の設計監理をメインとする京都の設計事務所に勤めて参りましたが、光鯱会関西支部の活動にはここ２０年余り参加させていただき、２５～２６年度は千葉支部長の下で事務局長を務めさせていただきました。この度は前期事務局長を務めてくださった藤澤先輩が副支部長をお引き受け下さり、田邊新事務局長と前期より引き続き務めていただけることとなった７名の事務局員の方々と共に、関西支部の活動をより一層盛り上げて行きたいと思います。

今回の支部総会は神戸の竹中大工道具館の見学会に始まり、鵜飼名工大学長に「名古屋工業大学の精神と将来のすがた」と題するご講演を戴き、来賓の岡本光鯱会会長、井戸田本部長並びに木越名古屋工業会大阪支部長、水谷教授、夏目準教授及び４名の現役学生を含めて参加総数は４４名におよび、事務局及び参加会員の皆様のおかげで盛会の中に無事終えることができました。

関西支部では毎年２月から隔月の第一金曜日に堂島の中央電気倶楽部において定例幹事・クラス委員会を開催し、光鯱会と共に大学や名古屋工業会の活動状況、情報を共有すると共に、会員の懇親を図っております。また定例会では名工大の教員の方々のご講演や、会員の実務における貴重な経験のご講演を戴き、建築への造詣を深めております。今後とも定例会と共に見学会や講演会の開催を通じて、会員の方々に情報を発信し、若手の参加を促して、会員相互の懇親に努めて行きたいと思います。

OB 会が元気であれば、現役学生の方々の励みにもなることと思いますし、その逆もまたしかりです。共に励み、名工大建築学科の名を高めて行きたいと思います。

〒 541-0057　大阪市中央区北久宝寺町 3-6-1
（株）鴻池組　田邊太一（06-6245-6315）
支部長　宮本和則（S55）　副支部長　藤澤繁男（S53）
連絡担当者（事務局長）　田邊太一（S57）